

## Artists for 3.11 年間活動報告 (2011年3月～2012年3月)

総務 田中 咲

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、日本全土を大きく揺るがした。被害状況が明らかとなる中、それに比例するかのよう、人々の被災者及び被災地への想いは日ごとに高まりをみせた。

我々Artists for 3.11は、代表宮崎翔太が発起人となり、震災発生4日後の3月15日に発足した。本会は、主に首都圏の音楽大学に在籍する者を中心に結成され、チャリティーコンサートの企画・開催を行っている。

第1回目のチャリティーコンサートは、5月2日に東音ホールにて開催された。これは、ピティナ(社団法人全日本ピアノ指導者協会)が主催者を募集したチャリティーコンサートシリーズ(全14回)の一環として行われたものである。本会は、会員である5人のピアニストによるコンサートを企画し、彼らの被災者への募る想いが音魂(おとだま)となって会場を包み込んだ。当日は募金箱を設置し、チケット代とあわせて101,506円の義援金が集まった。会場費の負担がなかったため、その全額を寄付金にあてた。このコンサートが本会の具体的活動の第一歩となり、その後も数回に渡り、チャリティーコンサートを開催した。

こうしたコンサートだけではない。7月には被災地に足を運ぶ機会も得られた。岩手地酒の南部美人五代目蔵元である久慈浩介氏の紹介により、いわて三陸復興食堂の活動に携わった。当日は、フルートをはじめとする管楽器の音に各奏者が想いを乗せ、岩手県大船渡市末崎ふるさとセンター店にそれが響き渡った。こうした被災地での演奏の他、レストランや大学内でのイベントなどにも積極的に取り組んだ。

その結果、2012年3月末日現在までに、チャリティーコンサートを5回、チャリティーイベントを8回開催し、日本赤十字社を通して486,205円を寄付した。

チャリティーコンサートでは、毎回チケット代とは別に募金箱を設置している。その効果は絶大で、寄付額のおよそ3分の1を占めていると言っても過言ではない。コンサートへ足を運んでくださる方々の想いの強さに、心打たれる事実である。

学生を中心として組織されたArtists for 3.11。新年度を迎え、会員の多くは社会人となった。会の内状が変化した今、どのようなかたちで活動を継続することができるか、そのあり方を見直す必要に迫られている。しかしながら、私たちの被災地及び被災者への想いが変わることはない。私たちにできることを日々模索しつつ、今後も活動を継続していく。